

様式1 令和2年度 山梨県立甲府西高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自主・自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと広く社会で活躍する人材を育成する。
-----------	---

山梨県立甲府西高等学校 校長 手島 俊樹

本年度の重点目標  「自分を律し、自己を高めていく」人間力の育成を目指し、以下に取り組む。	1 学び方を学ばせる視点のもと、主体性を引き出す深い学びを推進し、物事を深く掘り下げ、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成に努める。	達成度 A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)
	2 自己実現を図る進路目標の設定とその達成に向けた取組を支援し、自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成に努める。	
	3 部活動や学校行事、学校外活動など、様々な経験ができる機会を提供し、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるような努める。	
	4 PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かすなど、時代のニーズに応える特色ある教育活動の構築と推進に努める。	

評価  4 良くできている。  3 できている。  2 あまりできていない。  1 できていない。	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月16日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果	達成度 成果と次年度への課題・改善策
1	主体性を引き出す深い学びを推進し、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成	「問いを立て追究する」という生徒の探究力向上を目指し、深い学びを提供する授業改善に取り組む。	教員の自己評価 授業アンケート	・各教員の授業改善への意識は高く、生徒に対し深い学びを提供する工夫も見られ、思考力等の求められる力を育成する授業が進められている(生徒6, 教員17参照) ・教員のICTに係るスキルや活用への意識は確実に向上しているが、個別指導的な利用が中心で、授業での利用には課題が残されている(生徒27, 教員22参照) ・課題論文は計画的な指導が実現してきており、教育課程の整備も進められつつある(生徒4, 教員11参照)
		より教育効果の高い学習指導に向け、ICTに関する環境整備と職員のスキルアップを図りながらICTの利活用を推進する。	教員の自己評価 授業アンケート	
		課題論文やIBを中心に据えながら、探究型学習プログラムや教育課程の開発整備に努める。	教育課程の編成 課題論文の指導計画 学校評価アンケート	
2	自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成	生徒の学力向上に資する指導改善に向け、学びの基礎診断の結果をもとに生徒の基礎学力の分析と対策を適切に行う。	GTZ指標の変動 教員相互の授業評価シート	・学びの基礎診断等における問題別正答率等の分析をもとに、課題と対応策を年次ごとに教科担当が整理し、職員間で共有しながら指導に生かしている ・コロナ禍の中で、進路講演会や進路ガイダンスなどはオンラインを活用して実施し、新しい入試への情報提供に努めた(保護者18, 生徒21参照) ・オンラインを活用した面談支援が進むなど、生徒の学習支援においては、ICT利用による充実が図られた(生徒23, 教員40参照)
		進路講演会や進路ガイダンスを適切に記し、入試等への理解度を高めるとともに、目標達成に向けた学力向上に資する課外や講座等の効果的な実施に努める。	大学合格状況 学校評価アンケート	
		目標を意識し、その達成に向けて自主的に取り組む自己管理能力を向上させるため、学習手帳の利活用を進め、面談や個別指導等に活用する。	学校評価アンケート	
3	部活動や学校行事、学校外活動などにより、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長を支える	豊かな人間性や人間関係形成力の育成を図るため、学校行事や部活動等のあり方を見直しながら、生徒の主体的な取組を促す指導を推進する。	生活実態調査 学校評価アンケート	・生徒が中心となってコロナ感染への対策を考えながら工夫を凝らした風祭を実現するなど、主体性や協働性を引き出す学校行事を行うことができた(保護者18, 生徒16参照) ・コロナ感染拡大の影響を受けたこともあり、今年度は異校種間交流やボランティア活動など体験的な学習の機会が提供できなかった(保護者7, 教員35参照) ・生徒の観察や相談支援などきめ細かな指導に努めているが、保護者対応など一層の充実を図る必要がある(保護者14, 生徒12参照)
		社会の一員としての自覚、社会参画への意欲などの醸成に向け、地域貢献や異校種間交流、ボランティア活動など、様々な体験ができる機会の提供に努める。	行事開催状況 学校評価アンケート	
		悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員が連携を密にしながら、生徒一人一人の学校生活のサポートに努める。	生活実態調査 学校評価アンケート	
4	PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かした特色ある教育活動の構築と推進	グローバル化や高度科学技術などに対する素養を身に付けさせるため、同窓会や大学、企業等との連携を図りつつ各種講演会など多様な学びの機会を提供する。	講演会等の実施回数 学校評価アンケート 参加生徒アンケート	・同窓会の支援による講演会等は実施できたが、海外への短期留学、先端科学研修等、多様な学びの機会がコロナの影響を受けて実現できなかった ・プレIB講座を計画的にすべてのIB実施予定科目等で実施し、IBの良さ、その趣旨を生かした学び方など、生徒に思い刺激を与えることができたが、日常の授業においても、IBの手法を取り入れた指導の推進が必要である ・HPによる情報発信だけでなく、Formsを利用したアンケートやオンラインPTA理事会などICTを有効に活用し、意見や要望等を吸い上げることができた(保護者3, 生徒26参照)
		本校の特色化を図り、知的好奇心や探究心などの育成につながるため、新入生に対してプレIB講座を実施するなど、IBの良さが共有できる教育活動を展開する。	プレIB講座実績 学校評価アンケート 授業アンケート	
		教育活動の充実改善に生かすため、ホームページを単なる情報発信に留めず、双方向的に利用し、意見や要望聴取に努めるなどとして、有効に活用していきたい。	HPアクセス数 学校評価アンケート	

学校関係者評価	
実施日(令和3年3月8日)	
評価	意見・要望等
4	「生徒一人ひとりの高い学力や知的欲求に応える授業が展開されており、生徒側の満足度も高いことが、アンケートから伺える。一方、教員一人ひとりだけでなく、学校全体でさらなる授業改善、授業力向上を推進するためにも、教員相互の授業研究にしっかりと取り組んでほしい。例えば、授業マスター制を取り入れた教科ごとの典型的な授業モデルを「西高スタンダード」的なものとして定着できると、先生方の西高教員としての帰属意識や自負心の向上にもつながるのではないか。ひいては、生徒も「甲府西高で学んだ」という西高愛と自負が生きる力になるのではないかと思う。
	・ICTの活用についても、コロナ禍の困難を逆手に取り、この機会に教員のICTスキルを高めようという努力がされており、教員の意識の高さが感じられる。ICT先進校として、個々の教員のスキル向上にとまらずチームとして学校全体での取り組みをさらに充実させたい。 ・課題論文の取組は探究学習として、主体性を引き出す深い学びにつながっていると感じた。ぜひ発表や公表の場を設けて、取組のさらなる向上につなげてほしい。
	「いわゆる従来の学力は学びの基礎診断等によってよく分析され、生徒の学習の改善や入試対策に生かされている。同時に、近年導入されている探究的な学びについても、生徒の学びをどのように評価し改善につなげたいか、研究をすすめてほしい。 ・コロナ禍の中でも学びを止めず、さらにICTを生かしたオンラインで進路ガイダンスや進路講演会を行うなど、刻々と変化する入試情報の提供につとめられたことに敬意を表したい。今後、コロナが収束したのちも、今回の危機を乗り越えた経験を活かし、オンラインでの生徒面談や進路講演会の実施など、ICTを生かした指導体制を生かしていきたい。 ・大学進学希望がほとんどの中で、置まれている道徳観や勤労観、職業観を3年間どのように育てていくのか、生徒の思いが単に大学合格目標ととならないよう、これからも職員全体の共通認識のもと、取り組んでほしい。
3	・コロナ禍で様々なことに制限がかかる中、生徒たちが様々なアイデアを出し合いながら風祭を開催することができたことは、学校としても、生徒たちにとっても自信につながったのではないかとと思われる。コロナ禍中、できない理由を探すのではなく、どうしたらできるかを生徒自らが主体的に考えることができたこと、また生徒の力を生かせる教員の姿勢は素晴らしい。コロナ禍でまだまだ大変な状況ではあるが、今後も生徒の自主性をいっしょくみ仲間協力しあう学校文化の醸成に努めてほしい。 ・地域でもコロナ感染拡大のため行事が中止となり、学校との交流が出来なくて非常に残念であった(文化祭出演・老人ホーム交流等)。 ・スクールカウンセラーの利用が多くなっていること、マスク生活で生徒の表情など読み取りづらい状況ではあるが、より多くの生徒そして保護者が気軽に利用できる体制を強化してほしい。生徒保護者に限らず先生方の心の悩みに耳を傾けてほしい。
	・アフターコロナの世界では、ICTを利用して他者とつながる力が重視されるのではと思われる。インターネットを使って海外の学校などと交流するなど、生徒が積極的にICTを使って体験学習できる機会をつくるのが大切である。 ・IBについては、履修説明会や体験授業を実施したり、学びの特徴をあらわした冊子「DPハンドブック」を作成するなど、着々と準備が進められてきたことは高く評価したい。IBワールド・スクールとして、これまで以上に「主体的・対話的・深い学び」に取り組むことで、グローバル化に対応し将来国内外で活躍できる生徒の育成がさらに進むよう、継続して教育方法の改善に邁進されたい。一方、まだまだIBに対しての生徒保護者の理解が少な感じる。そして、IBにチャレンジする生徒も少なくはない状況ではないかと感じる。 ・PTA活動も色々な制約がなかなか活動が行われない状況のようであるが、子供達のために何ができるか考えながら、学校と保護者の関係強化の意味でも継続して欲しい。

留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。